

ずっと、つながっている

（前略）230名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。先ほど、一人一人の卒業生に、卒業証書を手渡しました。卒業証書は、皆さんがこの富士見中学校の生徒であり、小学校と合わせ9年間の義務教育の課程を修了したことを証明しています。一枚一枚の卒業証書には、番号が記されています。その生徒だけの番号、自分だけの番号です。最後に証書を渡した●●●●さんの番号は第27221号でした。この番号から、第1回卒業生から第79回卒業生までの27221名が脈々とつながっていることを実感します。そして来年度、本校はいよいよ創立80周年を迎えます。創立80周年のスローガンは、皆さんの意見や思いを取り入れ「ずっと、つながっている ～過去から今へ、そして未来へ～」に決まりました。3月5日には、地域の皆様で立ち上げた実行委員会が中心となって、創立80周年記念イベントを開催し、スローガンやロゴマークをお披露目したのちに、「全力フェス」「〇×クイズ」で大いに盛り上がりました。イベントを通じて、地域の皆さまや全校生徒・職員の一体感、つながりを十分に感じることができました。

さて、今から15年前の平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。ご参列の来賓、保護者の皆様には鮮明な記憶が残っていることと思います。この震災で多くの貴い命が奪われてしまいましたが、一方では新しい命も生まれました。震災発生年度（平成22年度）に生まれたのが、まさに、ここにいる卒業生たちです。卒業生の誕生日を見ると、震災が発生する数日前に誕生した生徒も複数名います。

福島県では、震災による原発事故の影響で多くの住民が日本各地に散り散りに避難しなくてはなりません。福島県南相馬市立小高（おだか）中学校の校区も同じです。震災当時、中学1年生だった学年の生徒106名のうち、2名は津波の犠牲になり、97人が避難のために離れて行きました。残った生徒はわずか7名。2年生になったその生徒達が、大きな日本地図に仲間の顔写真を貼り付けながら、「遠いね」「でもこの地図の上の空はつながってるね」など、口々につぶやき出したのだそうです。そのつぶやきを歌詞に綴り、当時の音楽教師、小田美樹先生が曲をつけたのが、合唱曲「群青」です。

「この地図の上の空はつながってるね」というつぶやきは、こんな歌詞になっています。「今旅立つ日 見える景色は違って 遠い場所で君も同じ空 きっと見上げているはず」。中学1年生まで一緒に過ごした仲間達への思いに溢れている歌詞だと感じます。

卒業生の皆さんは、卒業後それぞれの道に進んでいきます。楽しいこともたくさんあります。ただ、それと同じくらい悲しいことや苦しいこともあるんだと思います。そんな時は、どうか空を見上げてください。今ここにいる仲間の顔が浮かぶはずです。そして、この式辞前半でお話した、先輩・後輩、職員を含む富士見中学校や地域と「ずっと、つながっている」ことを実感することができるのだと思っています。

合唱曲「群青」は、卒業生「答辞」の中で、歌うのだと聞いています。この卒業生・赤学年を象徴するのは、なんと言っても「歌声」です。この仲間みんなで歌う最後の最後の場面です。「群青」はもちろん、「旅立ちの日に」「校歌」などでも、皆さんらしい歌声を響かせてほしいと願っています。（中略）

自分の道を歩み始める卒業生に、改めて「幸多かれ」と祈り、式辞といたします。